

第1・2学年 生活科学学習指導案

「みつけたあきであそぼう」

日時 平成28年11月28日(月) 5校時

1. 単元について

(1) 単元の価値

本単元は、学習指導要領の内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができる」と内容(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする」に基づいて単元を構成する。

子ども達が生活している会場の町は、田畑や山、川など自然豊かで、自然とふれあう機会も多い。しかし、生活する中で、見慣れた自然の変化に気付いていないことも多い。

本単元は、身近な自然物や身の回りにある物を使って、おもちゃを工夫して作ったり、遊び方を工夫したりして、遊びの面白さや自然の不思議さに気づき、安全に気を付けて、みんなで遊びを楽しむことができるようにすることをねらいとする。

季節の変化に関心のなかった児童も、学校の周りや校庭から見える大山、交流のある会見第二小学校の周辺にある花回廊などに繰り返し出かけることによって、秋の自然の風景には特徴があることに気付くだろう。秋の自然の副産物を、見たり手にとって拾ったりすることによって、遊びの道具としてのこれまでの経験を思い出し、たくさん集めて遊んだり、遊びのイメージを広げることができると思う。

秋の自然物を使ったおもちゃ作りや遊びは、ルールを工夫したり、素材を生かした遊びを発想したり、自分たちがつくったゲームや遊びへのこだわりを強く持つに違いない。同じ学年の友だちだけでなく、関わりの深い保育園児や2年生との交流を繰り返すことで、活動を通して得られる気づきが広がるものと思う。友だちと話し合い、気づきを深める学習を積み重ねることで、多様な考えを認めることができる子に育つと考える。また、お店屋さんとして、お客さんに喜んでもらうための接客の態度や言葉づかいなどを考え工夫する場を位置づけることは、相手意識を育て、豊かなコミュニケーション力を育てることにつながると考える。

自分たちのつくった遊びを通して、自分たちの生活は人との関わりで、楽しくすることができることに気づき、共に関わりながら主体的に生活していくよさを感じることができると思う。

(2) 子どもの実態

本校区は山々に囲まれ、田畑が広がり、自然豊かな地域である。子ども達は毎日徒歩通学をしており、四季の変化を日々感じながら学校生活を送っている。

子ども達は、春の「春見つけ」、夏の「夏見つけ」を体験して、自然の様子が変わること気づいている。また、目の前にある自然に触れることで何がしたいか考え、季節に関わる楽しさを感じ取ってきている。

春には、校舎近くの浅井方面に出かけてたくさんの春を見つけた。浅井方面は、たくさんの田畑が広がり、池があったり森があったりするなど、季節の変化を身近に感じることができる。春見つけをした時には、「田んぼに何も無い」「草がいっぱい」「たんぼぼがきれい」などの様子に気付くことができた。

夏には、夏にできる楽しい体験について考えた。「夏はプールに行きたい」「夏になるとカブトムシがいる」など、たくさんの意見が出た。そして、実際に夏を体験しようということになり、まずは春みつけと同じ場所に出かけて「いきもの見つけ」をすることにした。バッタを捕まえたり、シロツメクサで冠を編んだりして、夏見つけ楽しんだ。その中で、田んぼが緑色になっているなどの春からの変化に気づくこともできた。他には、水を使って夏を体験する「夏のわくわく体験」と題して、さかなつり、色水作り、しゃぼんだま、みずでっぽうなどを楽しんだ。振り返りをする中で、周りの人とかかわりについて考えたり、夏の楽しさを感じ取ったりして気づきを深めることができた。

それに続く秋見つけでは、子どもたちから「春も夏も行ったから、秋見つけにも行きたい」という声が挙がるなど、子ども達の期待感は大い。春や夏とは違った変化を見せる自然に、子ども達はとても関心を寄せていた。また、浅井方面以外にも標高の高い場所にある大山青年の家や、人工的に造園してある花回廊へ出かけ、秋見つけをした。どんぐりやまつぼっくりを拾ったり、秋に咲いているたくさんのお花を見つけた中、秋のよさを体験してきた。これらの秋の副産物を使って何がしたいか聞くと、「おもちゃや飾りを作りたい」「お店を開きたい」「お客さんを招待したい」「プレゼントしたい」といった意見がたくさん出てきた。そこで、見つけた秋を使って「みんないらっしやい！わくわくあきまつり」を開くことにした。

本単元では、子ども達の思いや願いをもとに児童の体験する自然や人等の対象に繰り返し学び、そこで生まれた気づきを学習の中心にすえ、主体的な学習を創り上げていきたい。また、本単元を通しておもちゃを作ったりお店を出したりする過程の中で、自分の思いを相手に伝えたり、相手の気持ちを考えて行動する子どもを育てていきたい。

(3) 指導にあたって

① 繰り返し場所や人にかかわる

秋は、時期や場所によってさまざまな姿を見せる。紅葉の変化や木々の副産物の種類や大きさなども多様にある。児童が秋を身近に感じられる場所は、季節の変化に気づかせやすい学校周辺であったり、校庭から見える大山である。大山は冬に雪遊びを行う場所でもある。また、校区内には、小小交流をしている会見第二小学校児童と出かける花回廊がある。児童が、他校の交流や繰り返し出かける場所を通して、自然の変化に気づくことができるように体験の場を設定した。まず、学校周辺の散策から、秋の活動への意欲を高めた。次は、校庭から見える大山の麓にある大山青年の家へ出かけ、校庭周辺とはちがう壮大な自然に触れ、秋の副産物を使った遊びや飾りづくり等への意欲を高めた。さらに、秋に咲く花がふんだんに鑑賞できる花回廊に行ってみたり、どんぐり拾いをしたりするなど、季節の変化を今後の活動も視野に入れながら場所を選んで活動を位置づけた。

また、児童同士の遊びは、交流のある保育園の年長児、さらには、2年生が生活科で『サツマイモパーティー』に招待してくれることもあり、昨年度同様な活動をしている2年生の視点で、1年生の活動のよさを相互に評価し合う場として設定したい。活動の体験をもとに話し合うことで季節への気づきや思い、願いや改善点を明らかにしながら繰り返し対象にかかわることができるようにしたい。

② 多様に秋を楽しむ

まずは、秋にどのようなことをしたいか子ども達に聞き、秋について考えた。そこで挙げた体験を「秋のわくわく体験」と題し、子どもの思いや願いに沿った活動を展開していく。自然の物を集め、集めた物を使って遊ぶ物を工夫して作り、様々な角度から秋を楽しむことができるようにする。また、学校での活動の様子を通信などで家庭に紹介することで、季節とかかわる体験のよさを呼びかけ、さらに豊かな体験にしていきたい。

③ 思いの詰まった表現物をもとに話合う

多様な表現活動や表現物をもとに友だちと交流することを通して、季節への気づきを豊かなものにしていきたい。体験が豊かなものであり、表現物が思いの詰まったものであるからこそ、協同的な語り合いが起これば、それによって気づきの質が高まると考える。

④ 掲示で学習の足跡を残す

子どもたちには、「秋のわくわく体験」を通して、秋の自然とかかわることの楽しさや季節のよさを味わってほしいと願っている。しかし、活動しているうちに活動の楽しさのみが強調され、季節の意識が弱くなり、目的が曖昧になってくることが考えられる。そこで、体験を振り返って話合う際には、子どもたちの楽しかったという感情も大切にしつつ、秋についての気づきや目標につながる掲示物を残し、思考を深めていきたい。

2. 単元目標

- 学校周辺や花回廊、大山青年の家で見つけた秋の材料を使って、おもちゃを作ったりお店の仲間とともに遊んだり遊びを工夫し、秋の素材を使って遊ぶ楽しさに気付くことができる。
- 1年生や保育園児や2年生との交流を通して、お店屋さんとして相手のことを考えて活動しお客さんをもてなし、楽しむことができる。

3. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
① 自分たちが集めた秋の材料に関心を持ち、おもちゃやかざりを作ろうとしている。	① 自分たちが集めた秋の材料の中から、選んだり見立てたり試したりしながらおもちゃやかざりを作っている。	① 秋の材料を使って、遊びの約束やルールを守って遊ぶことの楽しさに気付いている。
② お店屋さんとして保育園児や2年生と交流し、遊び方をよりよく工夫したり改善したりして、楽しく遊ぼうとしている。	② 保育園児や2年生に楽しんでもらうために、説明の仕方や表情や仕草や態度などかかわり方を工夫している。	② 自分たちのかかわりが、保育園児や2年生を楽しませることができたことに気付いている。

4. 単元構成（全20時間）

○学習活動	子どもの問い・思考	評価規準
あいみのあきってどうなるの？【12h】(前単元)		
○学校のまわりを探検してあいみのあきを見つける。 ○大山のあきを見つける。 ○花回廊のあきを見つける。	・田んぼが夏は緑だったけど、金色になっている。 ・大山キャラボクは大山にしか無いんだ。 ・サルビアがたくさん植えてあるね。 ・どんぐりやまつぼっくりをたくさんひろったよ。 ・みつけたあきのものでなにかしたいな。	【関心・意欲・態度】 ①身近な自然の変化に関心を持ち、かかわろうとしている。
あきのざいりょうをつかってあそぼう。【3h】(本単元)		
○本を見て作りたいものを見つける。 ○自分が作りたいものを作ったり、したいことをしたりして遊ぶ。 ○作ったものを紹介し合って遊ぶ。 ・どんぐりめいろ ・かざり ・にんぎょう	・どんぐりやまつぼっくりでかざりを作ろう。 ・どんぐりめいろを作ろう。 ・友だちが作ったおもちゃで遊んでみたいな。 ・あきのおもちゃで遊ぶと楽しいな。 ・保育園の時に1年生に招待してもらったよ。楽しかったな。 ・今度は年長さんと遊びたいな。 ・年長さんを招待したいな。 ・お店を出したいな。 ・おまつりをしたいな。 ・プレゼントをあげたいな。	【関心・意欲・態度】 ①自分が集めた秋の材料に関心を持ち、おもちゃやかざりをつくろうとしている。 【思考・表現】 ①自分たちが集めた秋の材料の中から、選んだり見立てたり試したりしながらおもちゃやかざりを作っている。
みんないらっしやい！あきのわくわくまつり パート1【7h】		
○年長さんとの交流で、どんなお店を出したいか考える。 ・さかなつり、ゴルフ、コロコロ、けんだま、わなげ ○お店の準備をする。 ○気を付けることを話し合う。 ○「みんないらっしやい！あきのわくわくまつり パート1」で年長さんと一緒に遊ぶ。	・自分たちが楽しかったゲームにしよう。 ・年長さんでもできるゲームにしよう。 ・やさしく声をかけたい。 ・しゃがんで顔を見て話したらいいと思う。 ・年長さんが楽しんでくれてうれしかった。	【関心・意欲・態度】 ②お店屋さんとして、保育園児と交流し、遊び方を工夫して楽しく遊ぼうとしている。 【思考・表現】 ②保育園児に楽しんでもらうために、表情や仕草や態度など、かかわり方を工夫している。

○保育園の先生からもらったアドバイス「ルールがわかりにくかった」「説明が上手にできるといい」について考える。	・ルールをわかりやすくしよう。 ・みんながルールを説明できるといいな。 ・もっといいお店にしたい。 ・もう1回やりたい。	【気づき】 ②自分たちのかかわりが、保育園児を楽しませることができたことに気付いている。 【気づき】 ①誰もがわかるルールが必要であることに気付いている。
2年生の、わくわくたのしいさつまいもパーティの招待を受ける。【2h】		
○2年生と一緒にわくわくたのしいさつまいもパーティを楽しむ。	・2年生から招待状をもらったよ。 ・クイズが楽しかった。 ・スイートポテトがおいしかったよ。 ・今度は2年生をお店に招待したいな。 ・招待状を渡そう。	
みんないらっしやい！わくわくあきまつり パート2【8h】		
○2年生に喜んでもらうためにはどんな工夫やおもてなしをすればいいか考える。 ○お店の準備をする。 ○お店の練習をする。 ○2年生にお店を宣伝する。(前時) ○次の時間のめあてを決める。(前時)	・もっと楽しくなるゲームにしよう。 ・ルールを上手に説明しよう。 ・2年生があそんでいる時に応援しよう。 ・やくわりをきめよう。 ・看板をつくろう。 ・えがおで話をしよう。 ・たくさん声をかけよう。 ・「いらっしやいませ」「ありがとうございました」と言ったらいいと思う。 ・お店の楽しいところをおしえてあげよう。	【思考・表現】 ②2年生に楽しんでもらうために、ルール説明を工夫して表現している。 【関心・意欲・態度】 ②お店屋さんとして、2年生と交流し、遊び方をよりよく工夫したり改善したりして、楽しく遊ぼうとしている。
○みんないらっしやい！あきのわくわくまつり パート2」で2年生と一緒に遊ぶ。(本時)	・2年生に楽しんでもらいたいな。 ・今日、私はルールを説明することをがんばろう。 ・やさしく声をかけたいな。 ・2年生が楽しんでくれて良かった。	【思考・表現】 ②お店屋さんとして、2年生に楽しんでもらえるように表情やしぐさ、態度で気持ちを表現している。

○活動の振り返りをし、活動のよさを認め合う。(次時)	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫したところやがんばったところを褒めてくれてうれしい。 ・みんなが喜んでくれたからお店を開いて良かった。 	<p>【気付き】</p> <p>②自分たちのかかわりが、2年生を楽しませることができたことに気付いている。</p>
----------------------------	---	--

5. 本時の学習

(1) 本時の目標

【1年生】 秋のものを使った遊びを行うことを通して、互いのよさを認め合い、周りの人とかかわる楽しさやよさに気付くことができる。

【2年生】 秋いっぱいわくわくまつりを楽しみ、去年のおもちゃまつりと比較して今年の1年生のよさを見つけることができる。

(2) 準備物

- ・ブルーシート (2)
- ・テーブル (8)
- ・学び時計
- ・展示用壁 (2)
- ・振り返り用ボード (5)
- ・CD (2) (活動用・オルゴール)
- ・学習の足跡が分かるもの (掲示物・試作を含めた子どもの作品・秋のリース)
- ・各店の準備物 (景品・看板など)
- ・ふせん
- ・ペン

6. 本時について (19 / 20時間)

前時

本時

今日のゴール

【1年生】保育園交流での改善点を活かして、振り返っている。
【2年生】おもちゃまつりを楽しみ、1年生のいいところを見つけている。

・2年生におまつりの紹介
・会場の準備
・ルール
・アピールポイント
・がんばったこと

○2年生に、各グループのルールやアピールポイントを紹介し、1年生ががんばってきたことを紹介する。

【けんだま】

- ・長いひもがやりやすくておすすめだよ。
- ・短いひもはむずかしいけど、楽しいよ。
- ・プレゼントがあるよ。

【ゴルフ】

- ・まつぼっくりが穴に入ると楽しいよ。
- ・へこんでいるところで打ったら打ちやすいよ。
- ・100点に入ると、プレゼントがあるよ。

【わなげ】

- ・わっかをゆっくり投げると、入りやすいよ。
- ・大きなわっかが入れやすいよ。
- ・プレゼントがあるよ。

【コロコロ】

- ・ゴムを強く引っ張るといいよ。
- ・あたりに入ると、プレゼントがあるよ。

【さかなまつり】

- ・釣り竿のひもが長いと、やりやすいよ。
- ・小さい魚が、釣りやすいよ。

【課題】パワーアップしたおまつりで、2年生におまつりでもらおう。

- ・店を出す。(二十分)
- ・はじめのあいさつ…児童・準備(五分)
- ・本時の流れの確認(五分) : T1

○お客さんに声をかけて、お店を出す。

- 1年
- ・「いらっしゃい」と声をかけて、2年生を呼ぶよ。
 - ・2年生の顔を見て、聞こえるように話すよ。
 - ・2年生に分かりやすいように、ルールを説明するよ。
 - ・当たったら、「すごいね」と言ったり、外れても「どんまい」と声をかけたりして、お店を盛り上げるよ。
 - ・お客さんが来たら、シールを貼るよ。

- 2年
- ・去年わたしたちがしたおまつりとは、違う遊びがあるよ。
 - ・1年生がおすすめしてくれた遊びを試してみたら、楽しかったよ。
 - ・1年生が声をかけてくれて、うれしかったよ。
 - ・1年生が「がんばる」と言っていたことが本当にできていて、楽しかったよ。

・振り返り(グループ十分・全体五分)

○1年生と2年生が、お互いの思いを聞いて意見交換をする。

5つのグループごとに、振り返りをする。(さかな…T1, わなげ…T2, けんだま…T3, コロコロ…T4, ゴルフ…T5)

- 先生 (改善点・ルールなど、看板を見せながら簡単に話をする)「1年生は、お店を出すときどんなことをがんばりましたか？」
- 1年生「わたしは、おすすめの道具をお客さんに教えることをがんばりました。」
- 先生「○○さんは、お店のおすすめを宣伝したんだね。それについて2年生はどう思ったかな。」
- 2年生「○○さんが、おすすめを教えてくれて、遊んでみたら楽しかったです。」
- 先生「2年生も楽しんでくれたんだね。2年生の話を聞いて、1年生はどう思ったかな。」
- 1年生「2年生が楽しんでくれて、わたしもうれしいです。」
- 先生「そうだね。2年生が楽しんでくれてよかったね。」

※教師は出た意見を板書する。

全体で、他のグループのよかったところを発表する。

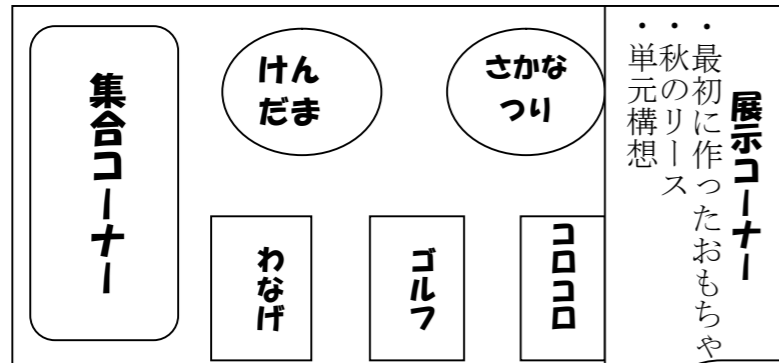
留意点

○2年生に事前にルールやアピールポイントやがんばりを伝えることで、本時の振り返りの気付きを深めるようにする。

支援

○写真などを提示して、2年生がまつりに興味をもちやすいようにする。

【場の設定】



- ・ルール
- ・おすすめ
- ・個人のめあて
- ・改善したところ

留意点

○1年生は、「顔を見て話す」「聞こえる声で話す」など、お客さんが喜ぶ関わり方を思い出しながら、対応するようにさせる。

支援

- 教師が各グループを見て回り、何をすればいいか困っている児童には声かけをする。
- ルールの看板を見て説明すればいいように、声かけをする。
- 活動中は曲を流し、振り返りの時間になったらオルゴールを流して時間を知らせる。

評価

- 【1年生】お店屋さんの遊びを通して、2年生にお店のよさや工夫を進んで伝えている。
(関・意・態…発言・行動)
- 【2年生】1年生のお店のよさや1年生のがんばりに気付き、遊びを楽しんでいる。
(関・意・態…発言・行動)

留意点

○1年生は、自分が意識しながらがんばったことを2年生に伝え、2年生は1年生のよかったところを見つけて伝える。
○2年生の話を聞いて、1年生はどのように思ったか考えさせる。

支援

- 各グループに教師が入り、1年生と2年生の意見を繋げて話し合いができるように声かけをする。
- 「楽しかった」「がんばった」などの意見は、「なにが楽しかったか」「どんなことをがんばったのか」などを聞き出すようにする。
- まとめる時、「人とかかわりに関すること」「店や道具に関すること」の2つの視点からまとめるようにする。

評価

- 【1年生】自分たちが作ったおもちゃを通してたくさんの人とかかわる中で、2年生に楽しんでもらうことの喜びや、自分たちのよさに気付いている。
(気付き…発言)
- 【2年生】1年生のがんばりや良さに気付き、伝えている。
(気付き…発言)

【主な学習活動・内容】

【指導上の留意点・支援・評価】